

2025(令和 7)年度 事業所評価結果

- 保護者等からの事業所評価の集計結果
(児童発達支援／放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価結果
(児童発達支援／放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価総括表
(児童発達支援／放課後等デイサービス)

2026(令和 8)年 2 月 26 日

一般社団法人 虹色
こどもデイサービス夢色 大在事業所

【公表】保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名		公表日				利用児童数	回収数
こどもデイサービス夢色 大在事業所		令和8年2月26日				0	0
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。						
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。						
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。							

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。						
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思えますか。						
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。						
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。						
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。						
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。						
満足度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。						
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。						
	29 事業所の支援に満足していますか。						

その他のご意見

【公表】事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		こどもデイサービス夢色 大在事業所		公表日	令和8年2月26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		玄関やトイレに段差はなく、トイレも多目的用を設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	3	構造上、個室はないが、十分な広さがあるので、個別課題を実施する際には空間を分けるなどの配慮が可能である。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向け評価表を使用し、紙面だけでなく、スマホ等からWeb上でも回答できるようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		業務に差し支えない範囲で外部研修に参加するようにしており、オンライン研修にも参加できるよう通信環境や機器を整えている。	すべての職員が参加する日程の確保が難しいことがあるので、講義動画を視聴することによるオンデマンド研修を徐々に取り入れている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページで公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2	活動プログラムの立案はその日の担当者が個別に行うが、行事等の立案はチームで行う。	ミーティング等で活動内容や実施方法等についてフィードバックを行い、次回以降に活かしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子どもの心身の状態や能力等に応じ、日々創意工夫しながら、常に新しいプログラムを取り入れる。	新しいプログラムの導入時には、職員間でシミュレーションをしたりして、事前に工程や難易度の確認を行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		コミュニケーションや社会性に関する課題については集団活動や自由遊びで、日常生活等に関する課題については個別に対応するよう計画を作成する。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		始業ミーティングを必ず行い、その日の利用予定者、前日からの申し送り、業務分担等を確認する。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終業ミーティングを必ず行い、その日の利用者の様子等を共有し、課題等があれば検討する。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録漏れや記載ミス等がないよう、記録者とは別の者が二重チェックを行う。	
	23 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリング時期に過去の記録からトピックを拾い上げ、計画の見直しに反映させる。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		原則として児童発達支援管理責任者が参画する。	やむを得ず誰も参画できない場合は、児童発達支援管理責任者が子どもの状況や課題を記載した書面を作成し、相談支援事業所に提供する。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて情報共有を図るとともに、移行支援会議が開催される場合にはできるだけ参加する。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	法人内に医療・福祉・教育等の多領域の専門職がいるので、必要に応じて助言や指導を受ける。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時のコミュニケーションやLINE等を使用して、こどもの日頃の状況を共有し、共通の会を深めていく。	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	保護者に対する特別な支援(プログラム)は実施していないが、必要に応じて助言等を行う。		
35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時及び利用料変更時等に説明する。		
36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				
37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5				
38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		家族等が仕事や家事等が落ち着いたあとも相談等ができるよう公式LINEアカウントのチャット機能を使って対応できるようにしている。		
39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
の 説 明 等	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		利用契約時に相談や申し入れに対する体制について説明している。相談等があった場合には、迅速かつ適切に対応するよう心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		公式LINEアカウントのメッセージ配信機能を使用し、種々のお知らせ等の情報発信を適時適切に行う。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもや保護者によっては、意思疎通しやすい職員が対応するなどの配慮を行う。仕事等で日中に会う機会の少ない保護者とは、メール・LINE等で情報を共有する。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	各種マニュアルを職員には事業所内掲示等で周知しているが、保護者には十分な周知ができていない。	各種マニュアルを電子化し、Web上で閲覧できるようにする。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用契約時に問診するとともに「成育状況調査票」に記載してもらう。定期受診・服薬のある子どもについては、その都度、内容を確認する。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		必要に応じて、保護者を通じて情報をもらう。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		人数制限により外部研修に参加できない場合には、法人内参加者からの伝達講習や動画視聴によるオンデマンド受講等の対応をとる。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		常時の身体拘束が必要となるような子どもがいる場合、身体拘束マニュアルにしたがって対応することを基本としている。		

【公表】事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○ 事業所名	こどもデイサービス夢色 大在事業所			
○ 保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～	令和8年2月7日
○ 保護者評価有効回答数	対象者数	0	回答者数	0
○ 従業者評価実施期間	令和8年1月23日		～	令和8年2月7日
○ 従業者評価有効回答数	対象者数	5	回答者数	5
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動や知能の発達途上である幼児に対する、日常生活動作等を遂行する上で必要な感覚・認知・運動面の発達を促す専門的な関わり	日常生活動作等を行う際の困難さの要因を感覚・認知・運動といった要素から分析、特定し、それぞれの課題に応じた支援プログラムを立案、実施する。	日常の活動や遊びに般化させるために、集団のなかでも取り入れることができる応用プログラムを立案、実施する。
2	地域で生活するこどもと家族の多様なニーズに柔軟に対応する体制と、就学を見据えた社会性を育む関わり	特定の支援方法に偏らず、あくまで利用者ニーズに沿った支援を行うよう心がけている。 現時点で抱えている課題だけでなく、学校生活において必要となるスキルの獲得に重点を置いている。	日頃の活動や遊び等の準備や後片付けなどの作業を作業として位置付け、個々の能力等に応じた実践ができるような支援プログラムを立案する。
3	ICTを活用したタイムリーな情報提供と多角的な保護者支援	Googleフォームを使用し、毎月のサービス利用申込みや保護者評価のWeb回答に対応している。 公式LINEアカウントを活用し、事業所内外の感染症発生情報や、災害・荒天時の営業可否等の情報を速やかに発信している。また、個別チャット機能を使用し、休日・夜間を問わず、保護者からの連絡・相談等を受け付けている。	育児や発達支援、その他、保護者に有益な情報を適宜発信する。 各種マニュアル（事故防止・災害時等）を電子化し、保護者がいつでもWeb上で閲覧できる仕組みを構築する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	注意の転導性が著しいこどもが学習等の個別課題に取り組むときや、情緒不安定時にクールダウンするときに使用できる、外部刺激を遮断できる専用スペースが確保できない。	事業所の構造上の制約により独立した個室を確保できないことが主な要因である。	利用定員に対し、活動スペースは十分に確保されているため、パーティションやテーブル等の配置の工夫により、視覚的・物理的に区切られた空間を確保するなど、環境調整を強化する。
2	集団活動のプログラムについては、その日の担当者が個別に立案することとしており、チームとしての体系的な立案体制が十分とはいえない。	その日に利用するこどもの人数や能力等に応じて活動プログラムを立案、実施しようとすると、柔軟に対応せざるを得ない現状がある。	ミーティング等において活動内容の振り返りや事前検討の機会を意識的に設け、チームとしての共通理解を深める。活動アイデアや実践例を蓄積・共有する仕組みを整備し、属人的にならない体制づくりを進める。
3	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルは策定されているが、保護者への十分な周知ができていない。	マニュアルは主として職員向けに整備・掲示されており、保護者へは利用契約時の説明にとどまっているため、継続的・具体的な情報提供の機会が不足していることが要因と考えられる。	各種マニュアルを電子化し、ホームページ等で閲覧可能な状態に整備する。また、公式LINEアカウントの一斉配信等を活用して、安全対策の具体的な内容や訓練実施状況を定期的に発信することで、保護者の理解と安心感の向上につなげていく。

【公表】保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名						利用児童数	14
子どもデイサービス夢色 大在事業所						公表日	令和8年2月26日
						回収数	8
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	6	1	0	1		
	2	4	1	0	3		
	3	5	2	0	1		
	4	5	1	0	2	帰ってくる、足の裏が真っ黒です。みんなで雑巾掛け競争などで楽しく掃除をするといいですね。	毎日、子どもたちが帰ったあとに清掃しています。みんなで雑巾がける等の工夫もしてみたいと思います。
適切 な 支 援 の 提 供	5	6	0	0	2		
	6	5	0	0	3		
	7	7	0	0	1		
	8	5	0	0	3		
	9	5	0	0	3		
	10	3	2	0	3		
	11	1	0	3	4		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	8	0	0	0		
	13	6	0	0	2		
	14	2	0	0	6		
	15	8	0	0	0		
	16	5	3	0	0	先生が変わって間もないので、コミュニケーションはまだ足りてない。	LINE公式アカウントのチャット機能を活用するなどして、コミュニケーションを図っていききたいと思います。
	17	6	0	0	2		
	18	1	1	3	3		
19	6	1	0	1			
20	7	1	0	0			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	4		
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	1		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	0	0	4		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1	0	4		
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	0	0	5		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状態等について説明がされていると思いますか。	4	0	0	4		
満足度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	5	0	0	3		
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	3	4	0	1		
	29 事業所の支援に満足していますか。	7	1	0	0		

その他のご意見

いつもありがとうございます。

【公表】事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		こどもデイサービス夢色 大在事業所		公表日	令和8年2月26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		送迎時間帯等は少人数で対応するため、常にこどもから目を離さないようにしている。職員の急な欠勤については、法人内で調整するようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		玄関やトイレに段差はなく、トイレも多目的用を設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	3	構造上、個室はないが、十分な広さがあるので、個別課題を実施する際には空間を分けるなどの配慮をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向け評価表を使用し、紙面だけでなく、スマホ等からWeb上でも回答できるようにして、保護者の意向等を把握している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		業務に差し支えない範囲で外部研修に参加するようにしており、オンライン研修にも参加できるような通信環境や機器を整えている。	すべての職員が参加する日程の確保が難しいことがあるので、講義動画を視聴することによるオンデマンド研修を徐々に取り入れている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページで公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2	活動プログラムの立案はその日の担当者が個別に行っているが、行事等の立案はチームで行っている。	ミーティング等で活動内容や実施方法等についてフィードバックを行い、次回以降に活かしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子どもの心身の状態や能力等に応じ、日々創意工夫しながら、常に新しいプログラムを取り入れている。	新しいプログラムの導入時には、職員間でシミュレーションをしたりして、事前に工程や難易度の確認を行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		コミュニケーションや社会性に関する課題については集団活動や自由遊びで、日常生活や学習等に関する課題については個別に対応するよう計画を作成している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		始業ミーティングを必ず行い、その日の利用予定者、前日からの申し送り、業務分担等を確認するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終業ミーティングを必ず行い、その日の利用者の様子等を共有し、課題等があれば検討するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録漏れや記載ミス等がないよう、記録者とは別の者が二重チェックをするようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリング時期に過去の記録からトピックを拾い上げ、計画の見直しに反映させている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	5		子どもがルールや条件などを選択できるような活動を実施したり、宿題をするタイミングを決定させるなどしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		原則として児童発達支援管理責任者が参画するようにしている。	やむを得ず誰も参画できない場合は、児童発達支援管理責任者が子どもの状況や課題を記載した書面を作成し、相談支援事業所に提供している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		子どもが通う学校とは、送迎時や保護者を通じて連携するようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校のホームページや「すぐ〜」などの専用アプリ、また、子どもが週末に学校から持ち帰るプリント等により学校行事や下校時刻を確認するようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		必要に応じて情報共有を図るとともに、移行支援会議が開催される場合にはできるだけ参加するようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		必要に応じて情報共有を図るとともに、移行支援会議が開催される場合にはできるだけ参加するようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	法人内に医療・福祉・教育等の多領域の専門職がいるので、必要に応じて助言や指導を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		5		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	案内があれば、研修会等には参加するようにしている。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時のコミュニケーションやLINE等を使用して、子どもの日頃の状況を共有し、共通理解を深めるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	保護者に対する特別な支援（プログラム）は実施していないが、必要に応じて助言等は行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時及び利用料変更時等に説明している。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		家族等が仕事や家事等が落ち着いたあとでも相談等ができるよう公式LINEアカウントのチャット機能を使って対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情受付体制については、利用契約時に重要事項説明書において説明している。苦情等があった場合には、事実関係の確認を行ったうえで適切に対応している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		公式LINEアカウントのメッセージ配信機能を使用し、種々のお知らせ等の情報発信をタイムリーに行うようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもや保護者によっては、意思疎通しやすい職員が対応するなどの配慮をしている。仕事等で日中に会う機会の少ない保護者とは、メール・LINE等で情報を共有している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	各種マニュアルを職員には事業所内掲示等で周知しているが、保護者には十分な周知ができていない。	各種マニュアルを電子化し、Web上で閲覧できるようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用契約時に問診するとともに「保育状況調査票」に記載してもらうようにしている。定期受診・服薬のある子どもについては、その都度、内容を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		必要に応じて、保護者を通じて情報をもらうようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		人数制限により外部研修に参加できない場合には、法人内参加者からの伝達講習や動画視聴によるオンデマンド受講等の対応をとる。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		常時の身体拘束が必要となるような子どもが現在はいないが、身体拘束マニュアルにしたがって対応することを基本としている。	

【公表】事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○ 事業所名	こどもデイサービス夢色 大在事業所		
○ 保護者評価実施期間	令和8年1月23日	～	令和8年2月7日
○ 保護者評価有効回答数	対象者数	14	回答者数 8
○ 従業者評価実施期間	令和8年1月23日	～	令和8年2月7日
○ 従業者評価有効回答数	対象者数	5	回答者数 5
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域で生活するこどもと家族の多様なニーズに柔軟に対応する体制と、こどもの将来を見据えた社会性を育む関わり	特定の支援方法に偏らず、あくまで利用者ニーズに沿った支援を行うよう心がけている。 現時点で抱えている課題だけでなく、将来において必要となるスキルの獲得に重点を置いている。	日頃の活動や遊び、学習等の準備や後片付け、必要な物品の整理などの作業を擬似的な仕事（役割）として位置付け、自己の能力等に応じた実践ができるような支援プログラムを立案する。
2	本人主体のスケジュール設定と自己決定支援	宿題等の個別課題に取り組む時間等のスケジュール設定や、事業所内での行動の選択肢の提供により、こども自らが自己選択・自己決定ができるような場面設定を随時行っている。	やりたいことだけでなく、活動の順序や休憩の取り方など、その日の心身の状態等から根拠のある自己選択・自己決定ができるよう視覚的ツールなどを使用して促していく。 自己決定の質を高めていくには振り返りの作業が必要なので、自己決定の結果を自分で評価する機会を設けるなどの工夫を行う。
3	ICTを活用したタイムリーな情報提供と多角的な保護者支援	Googleフォームを使用し、毎月のサービス利用申込みや保護者評価のWeb回答に対応している。 公式LINEアカウントを活用し、事業所内外の感染症発生情報や、災害・荒天時の営業可否等の情報を速やかに発信している。また、個別チャット機能を使用し、休日・夜間を問わず、保護者からの連絡・相談を受け付けている。	育児や発達支援、その他、保護者に有益な情報を適宜発信する。 各種マニュアル（事故防止・災害時等）を電子化し、保護者がいつでもWeb上で閲覧できる仕組みを構築する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	注意の転導性が著しいこどもが学習等の個別課題に取り組むときや、情緒不安定時にクールダウンするときを使用できる、外部刺激を遮断できる専用スペースが確保できない。	事業所の構造上の制約により独立した個室を確保できないことが主な要因である。	利用定員に対し、活動スペースは十分に確保されているため、パーティションやテーブル等の配置の工夫により、視覚的・物理的に区切られた空間を確保するなど、環境調整を強化する。
2	日々の活動プログラムについては、その日の担当者が個別に立案することが多く、チームとしての体系的な立案体制が十分とはいえない。	家庭都合等による急な欠席等が多く、その日に利用するこどもの人数や能力等に応じて活動プログラムを立案、実施しようとする、柔軟に対応せざるを得ない現状がある。	ミーティング等において活動内容の振り返りや事前検討の機会を意識的に設け、チームとしての共通理解を深める。活動アイデアや実践例を蓄積・共有する仕組みを整備し、属人的にならない体制づくりを進める。
3	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルは策定されているが、保護者への十分な周知ができていない。	マニュアルは主として職員向けに整備・掲示されており、保護者へは利用契約時の説明にとどまっているため、継続的・具体的な情報提供の機会が不足していることが要因と考えられる。	各種マニュアルを電子化し、ホームページ等で閲覧可能な状態に整備する。また、公式LINEアカウントの一斉配信等を活用して、安全対策の具体的な内容や訓練実施状況を定期的に発信することで、保護者の理解と安心感の向上につなげていく。